

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2016年7月

今年度のテーマは「心を育てる」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

体験活動

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

子どもを育てていく上で、体験活動が大事だと良く言われますがそれはなぜでしょうか。それは、人間は体験を通して成長するものだからです。そして、人間の成長にかかわる「体験」とは直接体験が中心となります。これは人類の歴史を振り返ってみればわかることで、最初から存在したのは、直接体験だけでした。人類の進歩の過程で、間接体験は途中から加わってきたものです。

しかしながら現代の子どもたちの状況は、直接体験が減少の一途を辿り、生活の大部分を間接体験が占める状況になっています。ある調査によると、小学生が一週間にテレビを見る時間は20時間を超えと言われ、一年間では、1000時間を超えます。小学生の授業時数は一番多い学年で、年間980時数(735時間)ですから、授業よりテレビを見ている時間の方が多いということになります。もっとも授業もテレビ視聴と同様に間接体験の範疇に入りますし、さらに塾やゲームの時間が加わりますから、今の子どもの生活に直接体験の入る余地はほとんどないと言っても過言ではありません。

もちろんすべてを直接体験できるわけではありませんし、間接体験も必要なものなので、この2つが、バランス良く車の車輪のようになって発達していくことが理想です。

このように、間接体験が突出した生活になっている子どもたちの現状は、状況の変化に対応する力や耐性の不足、人間関係形成力の不足、学習や勤労意欲の低下などが顕著になっており、いわゆる「生きる力」の弱さが課題と言われるようになっていきます。

子どもたちに「生きる力」を育てていくためには、自然や社会の現実に触れる実際の体験が必要となります。子どもたちは具体的な体験や事物とのかかわりをよりどころとして、感動したり、驚いたりしながら、「なぜ、どうして」と考えを深める中で、実際の生活や社会、自然のあり方を学んでいきます。そして、そこで得た知識や考え方を基に、実生活の様々な課題に取り組むことを通して、自らを高め、よりよい生活を作り出していくことが出来るようになるのです。

実際に、いろいろな調査では、体験活動の多い子どもほど道徳観や正義感が充実している。また、他者への思いやりや、積極性などが高く、自己肯定感も高くなっているという結果が出ています。子どもに基本的な生活習慣や自立的学習行動を身につけさせれば、厳しく躾けることより自然体験をさせた方が良いという説も説得力があります。

体験(特に直接体験)は子どもたちの成長の糧であり、「生きる力」を育む基礎となっているということが出来るでしょう。

五感が研ぎ澄まされ、心揺さぶる感動を体験できる「体験活動」を通し、子ども自身が心から楽しい、嬉しい、面白いといった経験が出来るよう手助けしていくことが、子育てにはとても重要になっていると思います。





おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

『子どもはみんな天才だ!』ひすい ことろう/著 (PHP)

ときに笑えて、ときに泣ける、そんな子どもの「名言」「珍言」を集めました! 大人には考えつかないような、子どもならではの自由な発想や、純粋な気持ちから出た言葉に触れることでクスリと笑えて心が軽くなる一冊です。

著者の子どもたちの名言エピソードを集めた、ひすい家コラムも必見。

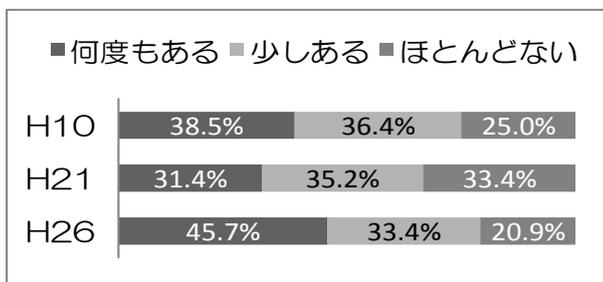


データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも?

自然体験と自己肯定感

●野鳥を見たり、鳴く声を聞いたことがある

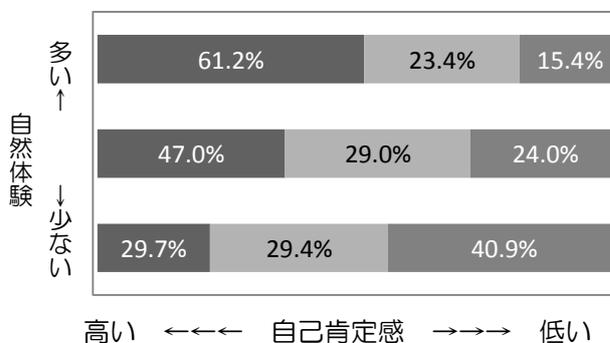


左の表は、自然体験の実施状況の推移をまとめたものです。平成10年度の調査結果と比べると、平成26年度のほうがより野鳥を見たり鳴く声を聞いたりしているという結果になりました。このほかにも「夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たこと」でも増加傾向が見られました。一方で、一度でも「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」がある人は平成10年度以降すべて5割以下となっています。

国立青少年教育振興機構「『青少年の体験活動等に関する実態調査』(平成26年度調査)結果の概要」

自然体験を行うことで、どういったものが育まれるでしょうか? 右の表は、自然体験の頻度と自己肯定感の関係性をあらわしたものです。自然体験を多くおこなっている子どもは傾向として、「今の自分が好き」「自分には、自分らしさがある」などといった自己肯定感が高いという結果でした。また、同様に自然を相手に様々な活動に一生懸命に取り組むことで、だんだんと自分自身に自信を持つことができるのかもしれない。

●自己肯定感



国立青少年教育振興機構「『青少年の体験活動等に関する実態調査』(平成26年度調査)結果の概要」

のしろの宝をマナブゥ!

夏休みの自由研究に!

教育委員会では能代の自然を実際に体験しながら学ぶ「親子でのしろの宝さがし」を行っております。専用ノートでも、スマートフォンのアプリでも簡単に参加できます。夏休みを利用してぜひ親子で挑戦してみてくださいはいかがでしょうか。



詳細は能代市HPへ!

<http://www.city.noshiro.akita.jp/c.html?seq=10806>



☆ 通信に関するご意見や感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2016年12月

今年度のテーマは「心を育てる」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

がまん

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

公共の場では静かにする、欲しいものがあったとしてもすぐ「買って」と言わないなど、生活の中で、子どもに我慢して欲しい場面はたくさんあります。でも、「ダメ」と叱るだけでは我慢する力は育ちません。我慢できないと言うことは「ああしたい、こうしたい」という自分の考えが持てて、それを表現できている姿です。主体性が育ってきているわけです。親御さんは困ることが多いかもしれませんが、健やかに成長している証拠とも言えます。子育てにおいて、大切なのは、「したい、見たい、いきたい、食べたい、・・・」といった主体性をしっかりと伸ばすことで、その裏側に自己抑制できる力（我慢する力）がくっついて育っていくことが理想的です。それでは、親はどのようにかかわるのが望ましいのでしょうか？

① ちょっとの我慢の積み重ね

子どもはスパイラルに成長していきます。少しずつ少しずつの成長です。いきなり難しいことはさせずちょっとだけの経験の積み重ねが肝要です。例えばスーパーで買ったばかりのお菓子を「すぐ食べたい」と言い出したときに、「うちに帰るまで我慢しなさい」と怒っても、なかなか難しいものですが、「すぐ近くの公園で食べましょう」という具合に、子どもに見通しがつく範囲で少しだけ我慢させましょう。



② 我慢したことをほめる

友達と一緒に遊んでいると、言い争いになったり、ケンカになったりしますが、これを通じて友達とのかかわり方を学んでいます。友達とのトラブルの時に、少し我慢できたときには「がまんしたんだね」と認めてあげましょう。我慢できた自分を誇らしく思うことができるはずです。子どもに我慢することを教え、子どもが我慢したら「よく頑張ったね」とほめてあげることで我慢中枢が刺激され、発達します。

③ 子どもとのコミュニケーションを大事に

子どもが我慢できないことがあったら、子どもとたくさん話してみてください。例えば、子どもがお菓子やおもちゃを「買って、買って」と我慢できないとき、まずは「○○ちゃんはこれが欲しいんだね」と子どもの気持ちを受け入れましょう。そして、どうしてそれが欲しいのか、子どもに理由を聞いてください。親御さんが丁寧に聞いていけば、子どもも自分の気持ちを伝えられるものです。それを聞いてあげてから、なぜダメなのかを伝えていけば、子どもは我慢したい気持ちを抑えて、納得するでしょう。

大人でも自分がしたいことを我慢することは難しいものです。子どもたちは我慢の練習を積み重ねている最中です。すぐにできないのは当たり前です。「うちの子は我慢できない」と思うのではなく「我慢の練習をしているとき」と思っただけでいいのでしょうか。大人はいつでも「ダメ」「我慢しなさい」と言えます。この言葉で言うことをきかせるのは最後の手段に取っておきたいものです。

我慢強い子を育てるためには「親の対応」がとても大事になります。子どもだけが我慢するのではなく、我慢するためへの「導き方」などをしっかりと親が心得るのも大事です。親が言葉や態度で子どもに伝えることはとても大切なことなのですね。

👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



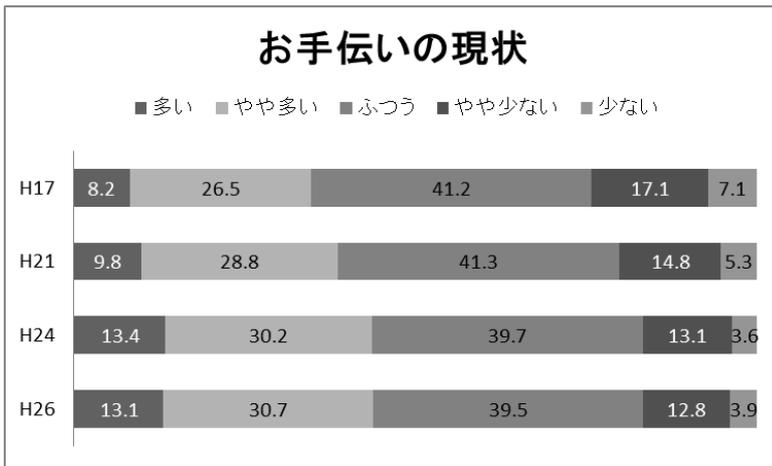
『大人はどうして働くの?』宮本恵里子／編（日経BP社）

どうして働かなくちゃいけないの?と子どもに聞かれたら、何て答えますか? さまざまな分野で活躍する7人が、「働くこと」についてそれぞれの考えを述べます。子ども向けのやさしい文章と大人向けの文章に分かれているので、親子で読める内容です。働く意味や価値について、家族で考えてみませんか。

👍 データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとります。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも?

●お手伝い



左のグラフは、「家庭で日常的にお手伝いをしているか」というお手伝いの現状をグラフにしたものです。平成17年度から24年度にかけては「多い」「やや多い」が増加していますが、24年度以降には大きな変化が見られませんでした。

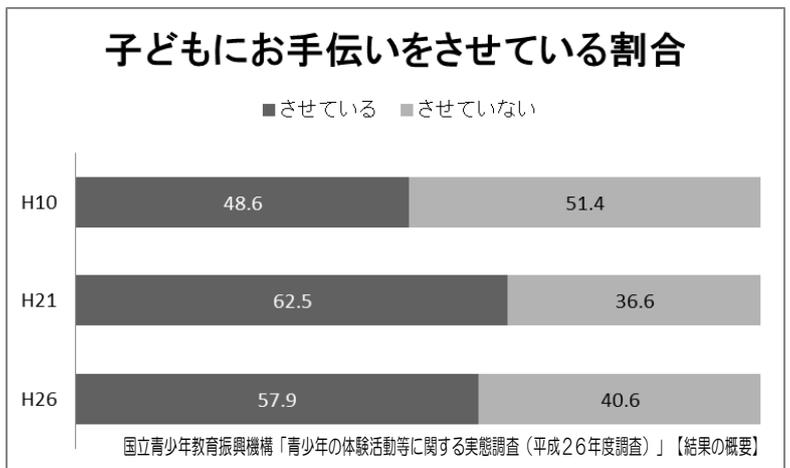
お手伝いの内容としては、「料理の手伝い」「家の掃除」「食器をそろえる」などが項目としてあげられ、そのうち「ペットの世話や植物の水やり」以外の全ての項目で増加傾向となりました。



右のグラフは、「子どもにお手伝いをさせている割合」をグラフにしたものです。平成10年度から21年度にかけては大きく増加していますが、それ以降は緩やかに減少しています。

最初に楽しくお手伝いを行うことで、

だんだんと「お手伝いが楽しい」という感覚が身についていきます。ぜひできるところからお手伝いをさせてみたらいかがでしょうか。



年末年始はぜひ家族の時間を!

煤払いや冬至、お正月など、年末年始には家庭で学べる行事がたくさんあります。

家族で年中行事を楽しみつつ、子ども達と一緒に日本の文化を学んでみてはいかがでしょうか。

よいお年をお迎えください、また、来年もどうぞよろしくお願いいたします。



乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見や感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2017年3月

今年度のテーマは「心を育てる」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

優しい心

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

お子さんが産まれると、親御さんは、いろいろと望むと思います。「素直に育って」「思いやりのある子に」「柔軟性のある子に」「人の気持ちが分かる子に」「人に迷惑をかけない子に」……。中でも「思いやりのある優しい子に育って欲しい」という「心」の成長を願う親御さんはとても多いようです。しかし、これがなかなか難しい。

どんなことでもそうですが、子どもたちはわからないこと、理解していないことなどたくさんあります。そもそも「優しさ」ということを知らない子どもにそれを求めても無理なのです。したがって、身近にいる大人（親及び家族）が、「優しい」を子どもに「教えてあげる」、「見せてあげる」、「してあげる」ように心がけることが不可欠です。「思いやり」の心を育てるためには、まず他の人から十分に「思いやりを受けた」という経験が基礎として必要なのです。

そのうえで、子どもが「優しい」行動をしたら、そのことを、言葉に出して褒め、「優しさ」ということを認識させていきます。

例えば、兄がお菓子を食べているとき、妹が「ちょうだい」と近寄ってきます。兄は「いやだ」といっても、妹はほしがります。ついに、兄は「しょうがないなあ」といって妹に分けてあげます。このとき「一人で食べようとしなくて妹に分けてあげて優しいお兄ちゃんだね」といってあげると、兄は満面の笑みです。分けてもらった妹も嬉しそうです。分けることは、親にとっては当然と思えることでも、改めて言葉に出して褒めることで二人は、それぞれに「優しさ」というものを学びます。

よく見ていると、子どもは日常生活の中でたくさんの「優しい」行動を取っているものです。例をあげれば、

- ・電車で席を譲る
- ・庭に咲いている花に水をあげる
- ・動物をかわいがる
- ・困っている友達に声をかける
- ・・・

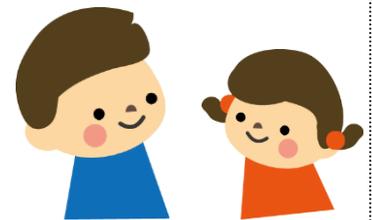
などたくさん見つけることができると思います。

その「優しい」行動を見たときは、思いっきり褒めてあげてください。子どもは誰かから褒められると「それはいいこと」なんだと気づくことができます。優しさも例外ではありません。具体的に褒めることで、その行動が強化されます。

大人にとって当たり前のこと、当然と思えることでも、子どもが「良いこと」「優しい行動」をした時は、できるだけ褒めるようにしていきたいものです。

「思いやり」を育むと言うことは、口で言って聞かせるものではなく、感じる気持ち（心）を育てることです。心を育てるには時間がかかるものです。長い目で見て焦らずに子どもと向き合い、ゆっくりと時間をかけて育むことが肝要です。

「時間は桑の葉を絹に変える」ということわざがあるように、貴重なものの育成には時間が必要だということでしょう。



👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

『母も娘も幸せになる 女の子の育て方』松永暢史ほか／監修（洋泉社）

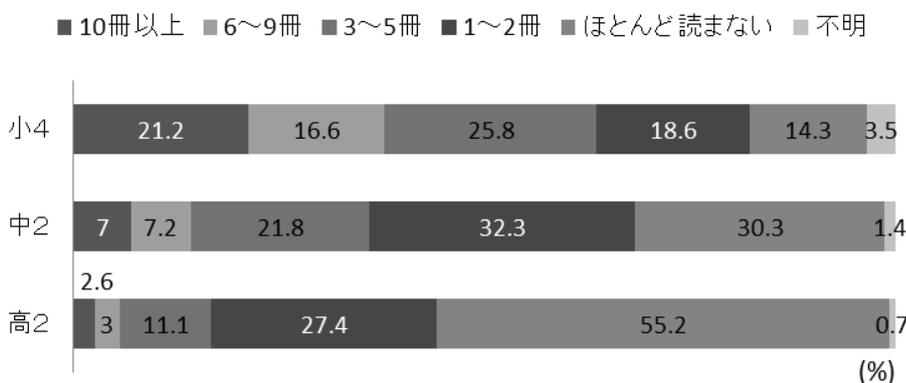
母親にとって娘は、育てやすいところもあるけれど、同性ゆえにぶつかることが多いもの。女の子ならではの人間関係の悩みや思春期を迎えた時の対応に専門家がアドバイスします。3～12歳の心と体の成長やしつけ、トラブル対処がよくわかる一冊です。



👍 データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

1か月に読む本の冊数(学年別)



(独)国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動に関する実態調査(平成26年度調査)」報告書より

今回は、学年別の読書のデータをとりあげました。小学4年生ではおよそ2割の児童が1か月に10冊以上本を読んでいる一方で、学年が上がるにつれ、1か月に読む本の冊数が少なくなっていることがわかります。特に、中学2年生ではおよそ3割、高校2年生では、半数以上の生徒が1か月に本をほとんど読んでいません。

これからの春休みに、毎日少しずつ本を読む時間をつくってみてはいかがでしょうか。

👍 ひとつこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にのこるひとつことをご紹介します。



子育ては、普通の生活の10倍の苦労、100倍の楽しみがあるとされています。

100倍楽しむために、大事なことがあります。

・「お母さんはダイヤが大好き」この「ダイヤ」というのは、お母さんが話す言葉を指します。

① ダ ダメ ② イ いけません ③ ヤ やめなさい

親の立場ですぐこのような言葉を言うのではなく、子どもの目線に立って考えてみてください。

親をいやだと思っても子どもにとっては親が最大の教師です。

あるがままのその子を受け入れ、慈しみそれが子どもを愛することにつながります。それが目に見えなくてもとても大切なことです。

家族みんなで子育てを楽しんでください。

(初任者研修拠点校指導教員 笠井 範子 氏「もうすぐ一年生 掌中の珠、五人のお子さんへ」より)

新たな年度へ向けて

4月から新学期が始まります。進級、進学で新しい生活に向けて準備を始めているところだと思います。

雪がとけて春になりつつある季節を楽しみながら、新学期を待ちましょう。



乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supo@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2017年7月

今年度のテーマは「心を育てる」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

好きこそ…

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

子どもは親がやって欲しいと思うことはなかなかやってくれず、どちらかというやっ
て欲しくないことをやる人が多いようです。

これをやって欲しい、あれをやって欲しいと思うならば、そのことを好きにさせることが、
繰り返し繰り返し言葉で言うよりは近道のように。子ども大人を問わず、人は、好きなも
のは大事にしますし、進んで取り組むものです。皆さんにもそれぞれに思いあたるふしがあ
るのではないのでしょうか。

もちろん私にもあります。子どもの頃、ご多分に漏れず、朝起きが苦手で、
親に注意されることがたびたびでした。しかし、こと、大好きな釣りに
出かけるとなると、どんなに早くても、一人でちゃんと起きたもの
でした。これが、勉強だったら・・・、いつもこうだったら・・・と
親は嘆いたものでした。



では、どうしたら、子どもは物事を好きになるのか。

なかなか難しい問題ですが、私は2通りあるのではないかと考えています。

1つ目は、親が好きになること。このことが子どもの行為に及ぼす影響はかなり高いと見
ています。

2つ目は、その行為や結果が、誰かを喜ばすものであること（誰かが喜んでくれること）
です。

私の場合は2つ目の方でした。私をかわいがってくれた祖父が、私が釣ってくる小魚をお
いしそうに食べてくれたのです。それが嬉しくて、また釣ってきてやろう・・・というわ
けで、どんどん釣りが好きになっていきました。

子どもに何か継続的に取り組んで欲しいことがあったら、可能であれば、まず親がそのこ
とに喜んで取り組むこと（まず、親が好きになること）です。親が楽しそうにやっているこ
とは、子どもにとっても興味と関心の的になるでしょう。そして、私もやってみたいな・・・
となれば。

さもなくば、その行為あるいは結果を喜んであげること。これはできそうですが・・・。

このどちらかが、必要なのではないかと考えています。

勉強が好き、運動が好き、読書が好き・・・、子どもは好きなことには
夢中になります。やれと言わなくても、進んでやるものです。

やって欲しいことを進んでやる子・・・嬉しい限りです。やがてそのこと
が職業となり、立派な業績を上げることに・・・例はたくさん見られます。

「好きこそものの上手・・・。」昔の人はうまいことを言ったものです。



おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

『お弁当を作ったら』竹下 和男/著 (共同通信社)

子どもが献立から買出し、調理や片付けまで自分でやり、親は手伝わない「お弁当の日」は食育の一環として始まりました。この本は、お弁当の日を題材とした短編集です。家庭の事情を抱えながらも、お弁当作りに奮闘し、成長していく子どもたちの様子が描かれています。子どもたちが作ったお弁当にも注目です！

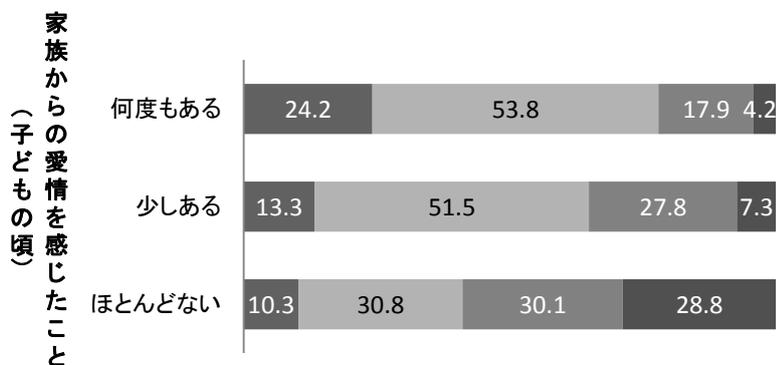


データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとりあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

ひどく落ち込んだ時でも、時間をおけば元気にふるまえる(現在)

■とてもあてはまる ■少しあてはまる ■あまりあてはまらない ■まったくあてはまらない



(独)国立青少年教育振興機構「子どもの頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究」より

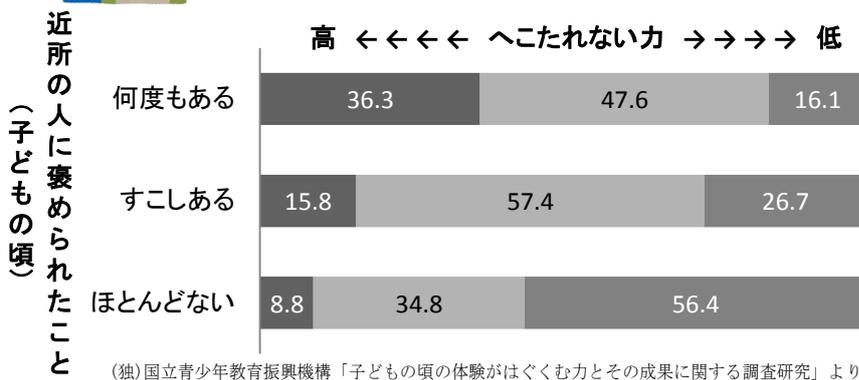
右のグラフは、子どもの頃の人間関係と社会を生き抜く資質・能力の関係です。

子どもの頃に近所の人に何度も褒められたことがある人は、現在、へこたれない力が高い傾向にあります。

子どもの頃に褒められる経験をする事で、自信をつけて、大人になってからもへこたれない力を持つようになるのではないのでしょうか。



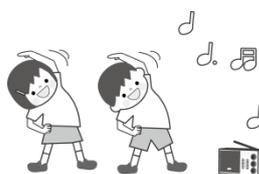
近所の人に褒められたこととへこたれない力の関係



(独)国立青少年教育振興機構「子どもの頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究」より

早寝・早起き・朝ごはん！

いよいよ夏休みです。夏休みも早寝・早起き・朝ごはんを心がけ、規則正しい生活をしましょう。また、普段学校に行っているときにはなかなかできないような体験活動をとおして、充実した夏休みを過ごしてください。



乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2017年12月

今年度のテーマは「心を育てる」です

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

感性を磨く

能代市社会教育指導員 佐藤 清美

子育てをする親御さんの中には「心の優しい人間」になって欲しいという願いを持っている方が多いのではないのでしょうか。「心の優しい」人間に育つためには子どものうちに「人を信じる力」を育てることが必要です。人を信じる力というのは、感謝や尊敬にそのまま直結するものですが、感謝や尊敬の念は善や美を感じる力などとともに“感性”に包含されます。

そして、“感性”とは自分の身の回りに起きている出来事や日常生活の小さな事柄を様々な角度から観ることができ、自分の心で深く考え、反応し驚いたり感動したりしつつ「価値あるものや現象に気づく」敏感な心と考えられています。回りくどい言い方になってしまいましたが、つまり、「心の優しい人間」を育てるには、「感性を磨く」ことが必要だということになります。

日本人の価値観は、知性に対して高く、感性に対してはそれほど高くないという論調が多数ですが、私は、“感性”に対する評価をもっと上げていいのではないかと考えています。知識を増やして“知性”を高めることも大事ですが、その前に感覚に働きかける実体験を多くして“感性”を磨くことがより重要なのではないかと考えています。“知性”はその土台に“感性”があってこそ有用なものだと思います。“感性”無き“知性”は時に暴走します。

人の心や思いは目には見えませんが、しかし感性豊かな人は、人の心の動きや感情の流れを敏感に感じ取ることができると言われていています。それ故に、多様な考えを持ちつつ、相手のことを思いながら行動できる「優しい人間」として振る舞えるようになるということでしょう。

それでは、感性はどのようにして磨いたらよいのでしょうか。

感性が最も磨かれる時期は5～6歳までと言われていています。この時期に善なること、美しいこと、心地よいことなどをたくさん体験させることが不可欠なのだそうです。自然体験、文化・芸術体験、交流体験などを通じた感動体験を積むことが有効なのですが、現代においては、これらの体験は、大人が計画的に実施しなければ実現しません。

子どもたちの“感性”を磨くその要諦は大人にあるということになります。

まず、感性を育み、その土台の上に知性を積み上げていくという考え方がとても重要だと思います。知性は生涯に渡って磨くことができますが、感性を磨く時期はある意味限られているということを忘れてはなりません。

優れた知性は感性が制御することで真に有用になる。知性万能の感のある現代社会において、感性の重要性を今一度考えてもいいのではないのでしょうか。



👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

『子どもを本好きにする10の秘訣』高濱正伸・平沼純／著（実務教育出版）

子どもが本に興味を持つ、ちょっとしたコツを教えます！図書館で10冊借りて選ばせる方法や、読み聞かせ、外遊びが好きな男の子も夢中になる本など、すぐに役立つ内容が盛りだくさんです。ブックリストも付いているので、本を選ぶ参考になります。



👍 データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータをとります。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？

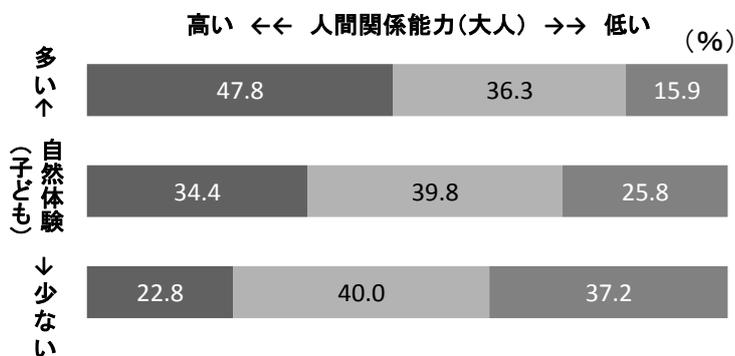


今回は、子どもの頃の体験活動の経験と大人になってからの資質・能力の関係性を取りあげました。

右のグラフは、子どもの頃の自然体験と大人になってからの人間関係能力の関係を表しています。

子どもの頃に山や川などで自然体験活動をした経験が多いほど、初めて会った人とでもすぐに話ができるような人間関係能力が高くなっており、子どもの頃の自然体験が少ない場合と比較して、人間関係能力の高さがおおよそ2倍になっています。

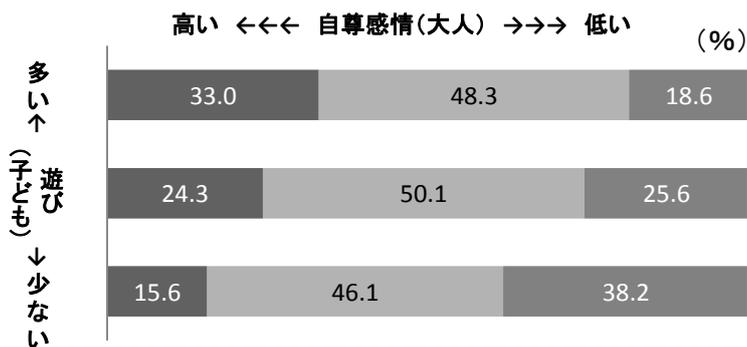
子どもの頃の自然体験と大人になってからの人間関係能力



国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」（平成22年10月）



子どもの頃の友達との遊びと大人になってからの自尊感情



国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」（平成22年10月）

左のグラフは、子どもの頃に友達と遊んだ経験と大人になってからの自尊感情の高さについての関係を表しています。

友達との遊びの項目については、ままごとやかくれんぼに加え、友達とのケンカや友達のケンカを注意したことなども項目に含まれています。

子どもの頃に友達と遊んだりケンカをしたりすることで、他人の大切さ・自分の大切さを知り、大人になってからの自尊感情の高さにつながっていると考えられます。

冬にしかできない体験を！

年末年始は、日本ならではの行事に加え、雪が降るこの季節だけにしか楽しめない雪合戦や雪だるま作りなどで、冬をより身近に感じるチャンスです。子どもたちにとって、貴重な体験活動のひとつとなると思います。



乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台1-1
 TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supo@city.noshiro.akita.jp